

3-3. 二戸市 (岩手県二戸市)

(1) アドバイザー派遣申請の背景

二戸市は、平成4年から巨木や伝統行事、物産や伝統技術、山や川、住民が価値あるものと認めたものを宝と位置付け、この宝を生かしたまちづくりを市民とともに進めてきた。知名度の高いA級観光資源は有しないが、食文化等地域に根ざした宝による観光の可能性を探るため、昨年10月、全国エコツーリズム大会を開催した。大会中のエコツアーにおいて参加者アンケートを実施したところ、もてなしや食文化等は高い評価を得た一方で、今後課題解決に向けて取り組むべき点として、ガイド人材の育成、ツーリズムの推進組織の設立、ツアー継続催行のための旅行事業者との連携が挙げられた。上記の取組を進めるに際しては、以前真板アドバイザーより提案のあった中核組織の立ち上げ、フェノロジーカレンダーづくり、ヤマブドウ酢の試作について今年度特に進めたいので、アドバイザーの助言を得たく本事業を申請した。

(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成25年1月11日(金)～平成25年1月12日(土)
場 所	岩手県二戸市内
アドバイザー	京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏
参加者	えのみの会、よりゃんせ金田一、岩誦坊クラブ、浄門の里づくり協議会、九戸城ボランティアガイドの会、天台寺観光ボランティアガイドの会、二戸市観光協会、いわて銀河鉄道株式会社銀河鉄道観光、なにゃーと物産センター、天台の湯、二戸市地域おこし協力隊、二戸市商工観光課、同地域振興課、同浄法寺総合支所、未来政策研究所 計31名
スケジュール・方法	<p>【1日目】「ガイド人材の育成、ガイド制度づくり」及び「エコツアーの商品化と事業化」 二戸市役所(二戸市長とアドバイザー・地域振興に関する意見交換/月1エコツアーの検証を関係者間において実施。課題共有と解決に向けた取組方策を話し合い/市内飲食店において、着地型観光に関する今後の展開について話し合い)</p> <p>【2日目】「地域が協働する推進体制づくり」 カシオペアメッセ・なにゃーと、天台の湯(二戸市の観光戦略について、まずはランドオペレーターを設置し、連絡調整機関として動かしていくこと。観光戦略フェノロジーカレンダーを作成し、地元で行えるプログラムや観光分野以外の情報を把握すること等の助言を受けた/試作したヤマブドウ酢の試飲し、他に依頼したアンケートの集計を踏まえて再試作をすることとした)</p>



(3) アドバイスの内容

●月 1 エコツアーの検証

- ・ 自分たちの宝でもある豊かな自然を、地域の皆さんが誇り、お客様をおもてなしすることで、メッセージは十分伝わる。
- ・ 二戸の皆さんは、地域の宝を誇りに思い、もっともっと地域自慢をした方が良い。遠慮がちなのが美徳なのではない。
- ・ 現在の価格設定は低いのでは？提供する食べ物（昼食やおやつ）等に工夫をして、価格を上げて良い。
- ・ 情報は財産。その情報や体験に価値があり、その体験に見合った適正な価格を提供すると良い。
- ・ ツアー中の事故対策は、受入団体へ丸投げでは、地域の負担になるので×。
- ・ 今後は、健常者目線の「五感を活性化させるツアー」だけでなく、高齢者、身体障害者等、一人一人の体力や状況に合わせたツアー作りが課題。顧客に合わせて、プログラムやガイド技術に工夫する必要がある。

●今後の観光戦略について

- ・ 二戸市では、①宝さがしを行うセクション（地域振興）、②観光協会に代表される戦略展開をするセクションを、これからは合わせていく必要がある。そのために、組織を設立するということがあったが、組織が立ち上がらないのであれば、専門的に行う人がいれば動く可能性がある。その後、ナイズ化したときに委員会という形にすれば良い。
- ・ 各地区における月 1 エコツアーのプログラム開発を行うときに人が出られない時期があったり、可能でないことがあったり等の課題があるが、視覚的に情報を整理することと、議題を明確化するために、従来のフェノロジーカレンダーに観光協会が持つイベント情報や農林課や観光課が持つ情報を加えた新しい観光戦略フェノロジーカレンダーの作成をすることをお勧めする。これにより、視点地域振興の 1 点のみでなく、包括的な視野の確保を可能にし、大きな枠組みの中でツアーを作成することができる。全体を通した表が負担になるようであれば、イベント・食・歴史・地元の生活の 4 テーマから始めてみるのも手である。
- ・ この時、重要になるのがランドオペレーターになる。ランドオペレーターは、それらの情報を把握し、地元との調整を図り、でき上がったプログラムをエージェント（IGR 等）へ提供し集客を行う役目が望まれる。地元の調整とは、プログラム作りの時に、イベントをぶつけた方が良いのか、ぶつけない方が良いのかといったこと等である。
- ・ 心配な点は、自己満足的なプログラム作りに陥りやすいこと。地元がよしとしているプログラムが必ずしも顧客にフィットする形ではない。回避するために、地元の人とツアーをやっている人、顧客のニーズを知っている人の 3 者を含めたマッチング会議（仮）を行い、地域の宝をベースにニーズとひねりを加えて、提供していく必要がある。

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 月1エコツアーの実施状況及び課題を関係者で共有することで次の展開に生かそうという機運が高まった
- ・ 今後の展開についてやるべき取組内容の優先順位を明確にすることができた

●今後の期待される効果

- ・ 各地で活動している地域づくり団体が、エコツアーガイドとして旅行者により上質なもてなしをするとともに参加者との交流を図ることで、経済的な効果をもたらし地域が元気なるような仕組みを構築していく。
- ・ 団体相互の情報共有や研鑽を図るとともに、旅行者を継続的に受入できるように市観光協会のランドオペレーター機能の向上を図っていく。
- ・ 造成したツアーを年間通じて催行するためにも、地域との協働によりフェノロジーカレンダー作りをするとともに、盛岡近郊に加えて八戸エリアからも誘客可能な旅行事業者と連携していく。



(5) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

- ・ 二戸市は「宝探し」による地域づくりの発祥の地である。約 20 年にわたり、地域の宝探しをベースに、エコツーリズムを導入し、地域づくりに取り組んできた。昨年（10 月 21～23 日）、その成果をもとに「全国エコツーリズム大会 in 岩手にのへ ～みちのく～の原風景に生きる知恵をみる～奥南部の雑穀文化とエコツーリズム」を開催、各地区の団体による市内 5 地区におけるエコツアー及び三陸沿岸被災地の野田村へのツアーと 6 コースのツアーを実施した。各コースとも参加者から高い評価を得るとともに、幾多の改善点の指摘、アドバイスを得た。市内のエコツアー実施地区は、すでに年複数回のツアー開催の実績をもっている。全国エコツーリズム大会の際には、大会のテーマに合わせて、更にプログラムを練り上げた。
- ・ 二戸市では、当初より、全国エコツーリズム大会を観光振興、地域づくりに取り組んでいくためのステップボードと位置付けてきた。では、全国エコツーリズム大会を終えた後、何に、いかに取り組んでいくべきなのか。現在、まず全国エコツーリズム大会の成果と課題の共有し、観光振興戦略づくりに取り組もうとしている。具体的には観光振興推進のためのロードマップの作成を進めようとしている。

●アドバイス（講義等）の概要

（観光振興に取り組むための中核組織の起ち上げ）

- ・ 全国エコツーリズム大会の成功を地域の力として真に獲得していくためには、継続と、それを可能にする仕組みが必要。二戸市の観光振興、地域づくりという目標にたつならば、全市的な観光振興を担う戦略会議とでもいうべき中核組織の早急な起ち上げが必要である。
- ・ この組織は行政及び観光協会、各地区でプログラムを作成・実施している市民グループ等によって構成する。事業にはツアープログラム開発とともに物産開発も含む。

（エコツーリズムを軸とする観光振興のためのロードマップの提案）

- ・ 今回、これについてのアドバイスが求められた。提案したロードマップは 5 年を目途に、3 つの工程（体制・人材、プログラム・物産開発、マネジメント）について、3 つのステップ（基盤づくり、受入体制づくり、ブランド形成）によって目標を達成するというものである。

（ガイド・スキルの向上について）

- ・ 全国エコツーリズム大会における評価結果の一つは、インタープリテーションの方法、工程管理、リスク管理等ガイド・スキルの向上の必要性である。そこで日本エコツーリズム協会のガイド研修講座等、ガイド研修の機会を設けることを提案した。
- ・ またガイドの仲間同士で実際にコースを歩き、各自の情報や意見を交換し、全体としてコースの魅力を引き出し、伝えるインタープリテーションを工夫し合う機会をつくる等、仲間同士の研鑽も大切。

（フェノロジーカレンダーの作成）

- ・ 二戸市の宝の旬、イベントや祭り、各地区のツアー等を、すべて盛り込んだフェノロジーカレンダーを作成する。1 年間を一覧し、エコツアープログラムを開発していくのに有効である。エコツアープログラムを作成する中で、宝の深堀を行い、ストーリー性のあるプログラムの開発を進める。

（雑穀食を食べられる場づくりとその情報）

- ・ 食は二戸市の観光振興において占める比重は大きい。「雑穀文化」を中心にすえているが、どこで雑穀料理

を食べられるのか分からない。店のメニューの一つに加える等でも良いから雑穀料理を食べられる場所をつくる、あるいはその情報を入手可能にすることが必要。

(ヤマブドウ酢の試作について)

- ・ 物産開発として二戸市ではヤマブドウを素材とする新商品の開発が課題となっており、ヤマブドウ酢が候補にあがっていた。全国エコツーリズム大会を二戸市の前年に行った高島市には、伝統的な醸造法によって製造している 400 年の老舗酢醸造会社がある。真板が関わっている高島市商工会女性部ブランド研究会とも協力して試作品を製作、二戸市と高島市双方での販売をめざす。地域間の宝の交流による物産開発のモデルとなるのでは。まずはそのための資金探しの努力をする。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ これまで各地区のエコツアーや体験プログラムの作成、実施は、専ら地域振興課の担当であったが、今回、初めて商工観光課及び観光協会の担当者が合流しての会議が行われた。「業」として、経済効果を求められる段階に達したということである。商工観光課、観光協会も、二戸市の観光振興は、その資源の特性から見てエコツーリズムが核となるとの認識を示され、二戸市の観光振興の方向については、すでに合意がなされている。早々に全市的な中核的な組織を起ち上げ、既存の観光の観念に縛られることなく、宝探し 20 年の成果を存分に活用した観光振興を推進してほしい。「まちづくり推進委員会」というよき手本もある。
- ・ 二戸市は 20 年間にわたり膨大な宝を発掘している。現在使われているのはまだ一部に過ぎない。20 年経ち、宝の資料集や写真データ等の存在を知らない人たちも出てきている。このようなデータベースを各地区のグループも含め全体で共有し、活用してほしい。エコツアーや体験プログラムの資源となる宝が見出し得ると思う。
- ・ またデータによって宝を知るのみでなく、次には現場に出て、地元の人と話をすることで宝をつなぐストーリーもみえてくるはずである。中核組織は行動する組織であってほしい。
- ・ 今後の二戸市の観光振興を担う人材の登場を期待したい。宝を観光資源として見だし、地域の人たちと一緒に磨き、エコツアープログラムに仕立て、プロモーションから販売までもっていくことのできる人。エコツーリズム・プロデューサー、あるいはランドオペレーター、地域コーディネーター等、名称はともかく、地域の宝とツアー客のニーズをつなぐ人材。これが今求められている人材である。先のロードマップに従って進めていく中で、そのような人が登場してくることを期待したい。

